

## いのちを ささえる うたと ことば トークリサイタル

公益財団法人 住友生命健康財団 主催  
スミセイライフフォーラム

### 生きる

いのちを ささえる うたと ことば  
トークリサイタル  
講師 新垣 勉

後援 京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、公益社団法人京都府視覚障害者協会、住友生命保険相互会社 京都支社

第1部 講演「私を救った出逢い」

第2部 新垣勉ハートフルリサイタル

講師 **新垣 勉**

2016年3月5日(土) 京都コンサートホール 大ホール

主催：公益財団法人 住友生命健康財団

後援：京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会

公益社団法人 京都府視覚障害者協会

住友生命保険相互会社 京都支社

1,600名のお客様で満席の京都コンサートホール、「いのちを ささえる うた と ことば トークリサイタル」は小春日和にぴったりの「この広い野原いっぱい」の歌声で幕を開けました。

テノール歌手、新垣勉さんは全盲のハンディキャップや数々の逆境を乗り越え、明るく力強い歌声で多くの方を励まし、勇気づけてきました。第一部ではその新垣さんを支え、人生を切り開いていく力となった出逢いと言葉、歌をたどりながら、生きることの素晴らしさをお話いただきました。

恵まれない境遇にあったとはいえ、少年時代の新垣さんは、音楽はもとより、点字、英語、放送部の活動など、のびのびと才能を発揮する盲学校での生活を送っていました。才能を伸ばせた秘訣は先輩や先生の「アドバイスの言葉」を素直に受け入れ実行することでした。アドバイスをする方は「褒める」ことが大切で、自分はおだてられることで苦手だったことに取り組みきっかけができ、いったん取り組むと今度は熱中して得意になることが多くあったといいます。

14歳、新垣さんを養育していた祖母が脳梗塞で亡くなると新垣さんの人生は暗転します。祖母の死をきっかけに今まで大人たちが隠していた真実、失明の原因が助産婦による過失であったこと、母と思い込んでいた人が実は祖母であったことなどを知り、天涯孤独の境遇と相まって新垣さんは自殺未遂を図るほどの絶望に追いやられます。

しかし新垣さんは二つの大きな「出逢い」で人生を立て直すことができました。

「米兵の父と日本人の母が障がい者の自分を放り出したことは殺してやりたいほど憎い。」との思いをぶつけたある牧師が、慰めの言葉さえなくただすり泣く姿に、縁もゆかりもないこんな他人のいのちを、ただただ涙で抱きしめてくれる人もいるのだ、生きるということは大切なことなのだ、という気づきを与えてくれた出逢い。

オーディションで新垣さんの歌声を聴き「君の声は神様とお父さんからの贈り物、その声を使って人々を慰めなさい。」と教えてくれた世界的ボイストレーナー、バランドー二師の言葉で、今までマイナスばかりだと思っていた自分の血と身体が実はプラスの宝物なのだと気づかせてくれた出逢い。

新垣さんにとって「生きる」とはとの問いに「人生とは工事中、これで終わりということのない完成のない歩み。ナンバーワンでなくていい、自分に与えられたオンリーワンの良いところを発見し、それを人のために役立て続けること。」とお答えされました。

第二部、ハートフルリサイタルではとにかくたくさん歌を歌いたい、ということで全10曲。「戦争を知らない子供たち」を会場のお客様と大合唱したり、自らピアノを弾き、ピアニスト木村祐平さんの誕生日を「ハッピーバースデー・トゥ・ユー」で祝うなど、まさにハートフルなひと時が繰り広げられました。

